

今回の夏季語学研修を通じて、様々な貴重な経験をする事ができました。私は高校生の頃に、山口県で開催された世界ジャンボリーにボランティアとして参加したことがあり、その際に文化の違いについての授業を受けていたので、ある程度は異文化について知っているつもりでいました。しかし、初めてのアメリカでの生活は毎日が驚きの連続でした。

一つは登下校での出来事です。私は学校までの交通手段として電車を利用していました。私は車内に動物を持ち込む時は、バックに入れなければならないと思っていました。それが日本での常識だからです。しかし、アメリカでは、ペットをリードにつないだ状態で車内に連れ込んでいたのです。他にも自転車などの乗り物までも車内に持ち込んでいました。日本では考えられない光景を目にしたので、初めてその光景を目にしたときは非常に驚きました。また、車内での携帯電話での通話も日本ではマナー違反とされています。しかしアメリカでは、車内にいる人全員に聞こえるのではないかとというくらい大きな声で通話をしていました。これも日本では見られない光景です。

また、SDSU で知り合った友人たちとの会話で、必ずと言っていいほど宗教の話をしします。彼らは自身の信仰している宗教について非常に詳しく理解しており、また、ほかの宗教にも興味を持ち、様々な質問を問いかけてきました。その時、私たち日本人は自分の信仰している宗教についてあまり知識を持っていないということを改めて実感させられました。彼らの質問にほとんど答えられなかったからです。日本の宗教観は世界と比べて大きく違うと聞いてはいたものの、実際に生で実感したときは驚きを隠せませんでした。

アメリカで生活した1か月の間に、まだまだたくさんの文化の違いを体験しました。その文化の違いのせいで戸惑うこともありましたが、今ではそれもとてもいい思い出です。



※記載の学年等は参加当時(2018 年度)のものです

アメリカで沢山のことを学びました。今回の研修は語学が目的でしたが、実際にアメリカに行くことによって語学以外のことも多く学べました。例えばアメリカでの買い物やレストランでの食事など実際にそこで生活しなければ体験出来ないことです。ホストファミリーとの会話もその一つです。アメリカの一般家庭の中で生活をし、日常会話をする。この日常会話の英語は学校で学ぶ英語とは違ったりして戸惑うこともありました。しかし次第にホストファミリーの癖などをつかむうちに慣れてきます。このような経験は日本では出来ないのも、私にとって最も参加してよかったと思えたことです。

またアメリカでの 1 ヶ月は自分にとってちょうどいい長さの研修でした。本気で英語を学びたいのなら短いかもしれませんが、長期留学へのファーストステップとしては最適なプログラムだと思います。サンディエゴの主要な観光スポットは回れるし、町を満喫出来た頃に帰国となります。私は自信をもってこの研修をお勧めします！



私は大学1年生の夏休みを利用して、アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるサンディエゴへ、1ヶ月の語学研修に行ってきました。私は中学生の頃から英語に苦手意識を持っていたので、この研修で英語を好きになりたいと思い、参加を決めました。

サンディエゴにつくまで自分がどのくらい英語でやり取りができるのかわからず、不安と期待でいっぱいでした。現地については見るものすべてが新鮮で楽しく、1ヶ月はあっという間に過ぎてゆきました。不自由なく会話ができただけではありませんでしたが、一生懸命話しているうちにつかんだコツと、サンディエゴの方々の優しい対応のおかげで、後半の日々は生活の中で話すことが楽しくもありました。

私のホストファミリーは一人暮らしの女性と、日本人の留学生でした。時間がかかっても会話の内容を理解して、言葉のキャッチボールが成り立つように努力しました。また、ホストマザーが「自分の家と同じように過ごしていいのよ」と何度も声をかけてくれたことで自由に過ごすことができました。

学校生活では午後のコミュニケーションの授業が印象的でした。年上の人が多く、自分よりもレベルの高い会話に入っていくことに最初は勇気が必要でしたが、周りの英語への前向きな姿勢につられて少しずつ自分から意見を述べたり進行したりできるようになりました。

休日や時間に余裕がある放課後は様々な場所へ行きました。自分たちで調べて目的地を訪れるのは楽しかったです。わからないことはためらわずに現地の人に聞き、とりあえずチャレンジすることを心掛けました。

今回の研修で自分の力を試すことができました。英語で生活することが楽しかった、という経験が今後の学習に対する私の気持ちを前向きに変えました。私は今、長期の留学を目標に英語を学習しています。1ヶ月という期間は短く感じられますが、自分の英語への意識を見直す貴重な体験ができていると思っています。



私は大学4年間でいろんな新しいことを経験し、新しい目標を見つけたいと思っています。その中の一つとして一度海外に行き自分の視野を広げたいと思い、この夏休みにサンディエゴ州立大学に語学研修に行くことを決めました。海外に行くことは私にとって初めてです。高校の頃から英語は苦手で、不安が大きかったのですが、サンディエゴでの1か月は毎日が新鮮でこれからの自分にとってとても良い経験になったと思います。

まず、私のホストファミリーは60代の夫婦でとても優しい方達でした。私の下手な英語を聞き返しながら理解してくれ、ゆっくり話してくれたのでホストファミリーと話すのが一番英語の練習になりました。毎日、その日にあったことを話したり、チップの渡し方などアメリカ人の風習を聞いたりすることでコミュニケーションをとっていきました。

大学は自分が思っていたよりも日本人が多かったです。アメリカに来たからには英語の練習をしたいと思い、サウジアラビアや台湾出身の友達と放課後や休日を過ごしました。英語は私やその友達にとっては第二言語なので、なかなか通じないこともありましたが、サウジアラビアのことを聞いたり、アラビア語を教えてもらったりできて面白かったです。

私たちはサンディエゴ州立大学の中のALIというところに通いました。月曜日から木曜日は9時半から3時半まで英語のリーディングやライティング、スピーキングの授業があり、金曜日の午前中はオプションで私はサーフィンを選択しました。サンディエゴのビーチの波は大きすぎて飲み込まれそうになりましたが、イケメンのインストラクターの方に教えてもらいながら、立てるようになってとても楽しかったです。私は通学にトロリーという電車のようなものを使ったので1か月の定期を買いました。定期ではバスにも乗れ、メキシコとの国境まで行けました。平日はビーチやショッピングセンターなど定期で行ける範囲でたくさん遊べるところに行ったり、大学内の無料で利用できるジムやボウリングで過ごしました。休日はエンゼルスの大谷選手の試合を見に行ったり、ディズニーランドに行ったりして、1か月とても楽しむことができました。

この語学研修でいろんな人と関わったり他国の文化を体験し、これから英語をもっと使えるようになってコミュニケーションをとれるように英語を勉強しようと思っています。



私が今回の留学を決意した理由は、「大学生の時にしかできないようなことをしたい」といったとても単純なものでしたが、このプログラムに参加して本当に良かったと思います。今回私がお世話になったホームステイ先は、イタリア人の女性1人と中国人の学生1人という構成でした。それに加えて、学校での授業もすべて英語で行われるため、アメリカに滞在しているときはほとんど英語でコミュニケーションをとらざるを得ない状況でした。最初は、その状況がとても辛かったですが、今ではそのおかげで自分の英語力が向上したと実感しています。授業では、グループごとにトピックが与えられディスカッションを英語で行う形式のものが多く見られました。ディスカッションでは、必ず全員の意見が求められました。まわりの人は、英語で自分の意見をはきはきと述べている一方で、私は授業内容を理解するのに精一杯だったため、まわりと比較して落ち込んだことがたくさんありました。しかし、家でホストマザーや中国人学生に自分から積極的に話しかけて英語を話す練習をすると、次第に話せるようになってきた気がします。

ここまでは、ネガティブなことを多く書いてきましたが、それと比べ物にならないほど楽しいこともたくさんありました。まず、授業がコミュニケーションを中心としたものが多く、クラスには様々な国の生徒がいるためたくさんの外国人の友達を作ることができ、異文化にたくさん触れることができました。また、大学の友人や現地で仲良くなった友人たちとトロリーという日本という電車のような乗り物で放課後や休日にサンディエゴの有名な観光地に出かけたり、学校の中にあるジムでボーリングをしたりとても充実した時間を過ごすことができました。

そして今回アメリカで1か月生活する中で感じたことは、相手が英語で話すことを理解することや自分の言いたいことを英語で伝えることが一番重要だということです。中学生や高校生の時は、受験のためにひたすら単語を覚え、英文法を学んできたという人が多いかもしれませんが、そのようなことはアメリカで生活していく上では、役に立たないことを今回の留学で感じました。なぜなら文法的に意味が通ってなくても単語を並べるだけで自分が言いたいことを相手が理解してくれるということがたくさんあるからです。私は、今回の留学で自分にとっての新たな目標ができたので、これからは、その目標に向かって頑張っていこうと思います。また、この体験記を読んでこのプログラムに行くかどうか迷っている人がいるなら、絶対に行くべきです。これで私の体験記を終わります。



私は高校の時にアメリカにホームステイをしたことがあります。その時に得たものも大きく、かなり貴重な経験をさせてもらうことができました。今回の語学研修もまた自分を成長させることのできる良い機会になるのではないかと思います。参加を決意しました。

二度目という事もあり、アメリカと日本の慣習の違いについて驚く事もあまりないだろうとは思っていましたが、高校の時とは違って行動範囲も広がり、住む場所も違ったので行く先々で異文化に驚き、毎日がとても新鮮でした。そして慣習や文化以外に何よりも前回のステイの時と変わったことは、ホストファミリー宅に学生、日本人が一人もいなかった事です。同い年の人や母国語が通じる人達がいらない環境下で、いかにして自分の伝えたいことを伝えるかということや、ホストファミリーの人達が伝えたいことは何かということを理解することが大変でした。ですがホストファミリーも、私が話す英語を聞き取ろうと一生懸命に耳を傾けてくれました。それに応えるべく私も英語を少しでも話せるように頑張ろうと思うことができ、英語力の成長にはとても良い環境だったのではないかと思います。

平日はサンディエゴ州立大学の ALI で授業を受けましたが、その時に他国から来た学生からも刺激を受けることができました。先生からの一方的な授業ではなく、先生と学生がコミュニケーションをとる双方向授業が他国の学生により展開されていき、そのような雰囲気の中、私たち日本人も授業を受けるにあたって積極的に発言していく機会も増えたのではないかと思います。主に四技能の授業を受けますが、特に他国の学生と顕著な違いが出てくるのはスピーキングでした。他国の学生は自分の英語の発音、文法が間違っていたとしても堂々と話していて、単語だけでも会話を成立させようとしています。その話す姿勢を私も見習いたいと思いました。逆に文法に関しては日本人が他国の学生に教えている姿を見る事もあり、互いが学びあえる関係というのはとても素敵だと感じました。

土日のほとんどはアクティブな友人達に恵まれ、遠出をすることが多かったです。トローリーやバスを使って知らない土地を移動することはとても良い経験になると思います。ホストファミリーにも動物園やアリゾナ州に連れて行ってもらいました。私以外日本人がいなかったので、生きた英語に触れることのできる良い機会になったと感じています。

今回大分大学から行った人達ともとても仲良くなることができました。ホストファミリーやアメリカ人の先生、ALI でできた他国の学生との出会いはとても貴重なものになったと思います。また機会があれば自分の英語力を伸ばすためにアメリカに行きたいです。



目を覚ますと見慣れた自分の部屋の天井が見える。毎朝同じ光景だ。しかし、今日は何か違う。周りの景色は何一つ変わらないはずなのに微妙な息苦しさを感じる。そう、この景色を次見るのは1ヶ月後だと自分でも分かっているからである。しかし、いまいち実感が湧かない。寂しさや怖さではなく、幼いときに感じた言葉に表せない感覚である。それは大分空港に着いても変わらない。周りのみんなだけ私が行くことを理解して、肝心な自分が状況を一番呑み込めてない気がした。驚くほど感情がない。無の世界である。しかし、搭乗時刻になり、家族に別れを告げるとき少し実感が湧いてきたが、特に大したことはなかった。まあそれもそうだ。別に一人で飛行機に乗ることも初めてではないし、旅行にも慣れてきた。「こんなもんか」とまで思うほどである。

しかし、サンディエゴ空港に着いてその考えは一気変わった。どこからか聞こえてくる声もまるで聞き取れない。やっと聞き取れて単語の1個か2個である。出口を出ると一人の黒人男性が「Seigo」と書いた紙を持って立っている。これがこの先お世話になるホストファミリーのホームーである。

ホームーはとても陽気な男性で私が話すことを丁寧に聞いて笑顔で答えてくれた。空港からホームステイ先に着くまで一度も会話が途切れることはなかった。我ながら頑張ったと思う。家に着いて荷物を置くと、ホームーは家のすぐ近くにあるハンバーガー屋に連れて行ってってくれた。これが私のサンディエゴ初の食事である。ホームーと会話をするときは英語を聞き取ることができるのに、ホームーと店員の会話は全く聞き取れない。私はそこで初めてホームーが私の為に丁寧に話してくれることに気づいた。少し調子に乗っていた分ショックだった。その日の食事はそれだけで私は疲れてすぐ寝てしまった。

次の日目を覚ますと、なんとなくまだ旅行気分の気がする。そんな朝が1週間ほど続いた。やっと学校に行くバスにもスムーズに乗れるようになった。同じクラスメイトの男子とも仲良くなり学校に馴染めてきた。昼食で色々なお店に毎日行くので、店員との基本的な英語の会話も難なくできるようになった。

そんなある日家に帰るとホームーは2人の男性を連れてきた。ホームーの友達のトミーとモウである。2人はとても優しく、私もすぐに馴染めた。4日に1回ぐらいは4人でご飯を食べる仲になった。中でも一番印象に残っているのは、日本では見たことない大きな長方形のピザを食べに行ったことである。縦30cm横50cmぐらいである。流石アメリカという感じだ。ホームーは他にも色々な所に連れて行ってってくれた。動物園やアウトレットなど私の予定がない休日はどこでも連れて行ってってくれた。平日は学校終わりに友達とジムやビリヤード、ボーリングなどをして、休日はホームーと出かけるのが日課になっていた。今思えば、充実した生活を送れたのはホームーのおかげだと感じる。

そして留学も終わりに近づいたとき、私はふと思った。この留学で何か得たものがあるか。特に思いつかなかった。何を得たのかと聞かれたら何と言えればいいかわからない。しかし、私がひとつ留学中に疑問に思ったことがある。アメリカは日本より少し物価が高いと周りの日本人が話していた。私もそれは生活していて少し感じた。でも本当にそうだろうか。私はアメリカの物価が高いのではなく、単に日本が経済成長できてないだけではないかと考えた。これは私の考えであるが留学中に私が感じた一番の疑問である。何が言いたいかと言うと、行かなければ分からないことは世の中には山ほどあると言うことだ。別にそれは国外に出る必要はない。日本の中にも微妙な変化を感じる所は多くあるだろう。得たものがないが、それを気づかせてくれたのが今回のサンディエゴ留学である。これからの人生の糧になればと思う。



※記載の学年等は参加当時(2018年度)のものです

私は、今回のアメリカ・サンディエゴでの語学研修で、貴重な体験や海外でしか得られない多くのことを学ぶことが出来ました。サンディエゴ州立大学での授業は日本の大学のように、先生が主として授業を進めるのではなく、スピーキング、ライティング、リーディング、どの授業も生徒たちが積極的に自分たちの考えや答えを発信して、それを先生たちがフォローをしながら理解を深めていくという形式でした。中には生徒同士でディスカッションをする機会も多くあり、ディスカッションでは世界中で起こっている社会問題に対する考えや、お互いの国の文化や社会情勢について様々な国の人と意見交換をし合いました。最初は慣れずあまり発言をしないまま授業が終わってしまうことがしばしばありましたが、段々とクラスメイトとも打ち解けていき、クラスに来るのが楽しみになっていきました。私は授業を通して、他の国の文化背景を知ることが出来るだけでなく、英語でのコミュニケーションの楽しさを改めて知ることが出来ました。また、何事においても他人に流されずに自分自身の考えをしっかりと持つことが大切だと実感させられました。授業外では、放課後に大学の側の教会や、山や湖などを散策したりしました。日本とは一味違った気候、景色、見たことのない植物や動物、全てが新鮮で貴重な体験となりました。週末の長い休みでは、国籍の異なるクラスメイトたちも誘って LA へ旅行へ行ったり、今回の研修のメンバーでミッドウェーやディズニーランドへ行ったりしました。

生活面において、私は今回ホームステイをすることに一番不安を抱いていましたが、その必要はありませんでした。私のホストファミリーはとても素晴らしい家族でした。ホストマザーは台湾の方で、ホストファーザーはサンディエゴ州立大学の先生で私のクラスの先生でした。ホストマザーは料理がとても上手で、私のためにわざわざ作り方を調べて日本食を作ってくれ、ホストファーザーは毎日学校まで送り迎えをしてくれました。家の中ではホストファミリーはいつもたくさん私に話かけてくれました。私が話そうとすると拙い英語を最後まで一生懸命に聞いてくれて、本当に嬉しく思いました。いつも家に帰ると彼らと可愛い二人の娘たちが「おかえりなさい！」と日本語で迎えてくれました。今でもあの温かい歓迎を思い出しては懐かしく思います。

私は今年からの編入生でかつ、3年生ということで就活の準備をしなければならないため、この研修に参加するかとても迷っていましたが、参加すると決めて心からよかったと思います。語学の面だけでなく、私自身も成長したと、とても感じます。これらの経験をこれからの生活、将来に繋げていきたいと思います。そして、サンディエゴで出会った素晴らしい友人たちと大好きなホストファミリーにいつかまた会いたいです。

